



令和6年度 横浜市幼保小連携推進地区事業

瀬谷区 瀬谷さくら地区 活動報告書

関東幼稚園

横浜市立瀬谷さくら小学校

【推進テーマ】

「子どもの育ちと学びをつなぐ幼保小の交流と連携」
～アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの充実をめざして～

〈推進テーマ設定の理由〉

子どもたちが安心して楽しく学んでいくために、園ではアプローチカリキュラム、小学校ではスタートカリキュラムを実施している。それぞれの取組をお互いがより詳しく知ることで、子どもの成長に活かしていきたいと考えた。

瀬谷さくら地区の特徴



〈幼保小の連携〉

連携している関東幼稚園をはじめ、およそ10園から子どもたちが入学してくる。

〈地域に見守られ育まれる学校〉

◆学援隊、さくらの子応援隊

登下校、学習支援など、子どもたちをサポートしてくださる地域の方に見守られ、「自分たちを応援してくれている地域の方」と親しみをもち、交流を深めている。

3年目

実際の交流から、子どもたちの安心を作り出そう

①職員の連携

- ・年間計画を立て、子どもの学びを共有する。
- ・情報交換・研修会・保育参観・授業参観
- ・アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの見直し

②子どもたちの交流

- ・1年生と園児の活動（学校紹介・公園での交流）
- ・5年生と園児の活動（交流）

3年目の取り組み

①職員の連携

【当該園】

- ・授業参観

【在籍したすべての園】

- ・学習事前アンケート
(生活科)

- ・招待状作成
(国語科)



保育士・教職員同士が互いの環境や取組の様子を実際に見て知ることで、子ども理解の向上と個に応じた支援について具体的に考えることができる。

3年目の取り組み

② 子どもたちの交流

・1年生と園児の活動

(学校紹介・公園での交流)

・5年生と園児の活動(交流)





【活動の経過と今後の予定】

第1回推進委員会	4月12日(金)	担当者による今年度の交流計画検討、立案
読み聞かせ	4月22日(月)	幼稚園教諭による1年生児童への読み聞かせ
授業参観	5月以降	幼稚園の職員が授業を参観
保育参観	5月2日(火)	小学校の職員が体操教室を参観
交流会①	6月7日(金)	1年生と年長児と交流
幼保小連携研修	7月25日(火)	子ども青少年局の研修に参加
幼保小連携研修	7月26日(火)	子ども青少年局の研修に参加
授業参観	9月20日(金)	授業参観
第2回推進委員会	9月~10月	第2回、第3回の交流会検討
幼稚園運動会	10月5日(土)	小学校の職員が幼稚園の運動会に参加
幼保小連携研修	10月19日(木)	子ども青少年局の研修に参加

小学校運動会	10月26日(土)	幼稚園の職員が運動会に参加
授業参観	11月20日(水)	瀬谷区小学校生活・総合研究会授業公開
生活発表会	12月7日(土)	幼稚園の生活発表会に小学校の職員が参加
交流会②	12月13日(金)	年長児と1年生が公園で交流
交流③	1月	年長児と1年生・5年生の交流(学校案内を通して)
交流④	12月中旬	小学生から幼稚園の先生、年長児に向けてお手紙を届ける。
合同防災訓練	1月9日(火)	小中合同防災訓練に幼稚園職員が参加
交流④	1月下旬	1年生から年長児に向けてビデオレター
区教育交流事業報告会	2月上旬	区教育交流事業報告会で報告
幼保小連携研修	3月18日(月)	子ども青少年局の研修に参加
第3回推進委員会	3月中旬	年間の振り返り 次年度の計画

【瀬谷さくら小学校スタートカリキュラム】

- ①子どもが学校生活に対して安心感をもつことができるようにすること。
- ②この時期の発達段階をふまえ、生活の中の興味・関心を核とした活動や体験を中心とした学習を取り入れることによって、幼児教育との滑らかな接続を図ること。
生活科を中核とした合科的・関連的な学習を構成していくこと。
- ③新しい集団の中での人間関係を徐々に築いていけるようにすること。
- ④新しい集団のルールを受け入れ、その中で自己発揮できるようにすること

小学校ってどんなところ・・・??

- ・勉強するところ
- ・大きいお兄さんやお姉さんがいる。
- ・広い
- ・先生がこわい？
- ・給食がある。・・・食べないと怒られるかも？
- ・歩いていく
- ・遠い
- ・幼稚園と全然違う…???



楽しみもある・・・不安もある・・・



4月 なかよしタイム

～〈心をほぐす〉 〈安心感をもつ〉先生や友達と仲良くなる時期～



思い思いに、自分のやりたい遊びを見つけ、遊びにふけります。
一人でも、大人数でも、誰も気にしません。
好きなことに夢中になって取り組んでいいのです。

毎日、続けるうちに・・・

誘い合ったり、
教え合ったりする
姿が見られるよう
になってきます。



場所への安心感が増
すと、遊びは次第に
ダイナミックに！！



あら？話し合いが始まっています。



いろいろな園から 集まってきた子どもたち。
遊び方のルールも それぞれ・・・

一緒に遊び始めると、ばらばらのルールでは
遊べません。

園ではこういうときどうしていたのかな??
「そうだ。みんなで決めればいいんだ！」

サークルタイム

*幼稚園、保育園で、近年取り入れている、
子どもたちの自主的な話し合い活動。大人
の意見を極力挟まず、自分たちで解決に向
けて意見を出し合うようです。

園での学びを、小学校に！

園では、こんな
お話をよく読んで
あげていたよ。

〇〇ちゃんは、
自分からトイレ
に行きたいって
言えないから
気にかけてあげ
てほしいな。

うちでは、コマ
回しが流行って
いたよ。

園では、〇〇の
運動をよくして
いたから、得意
だよ。



子どもたちが
話し合える時間を
たっぷり
とっていたよ。

【関東幼稚園アプローチカリキュラム】

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 健康な心と体 ○自立心 ○協同性 ○道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり ○思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い ○豊かな感性と表現

A	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩・遠足・芋ほり・防災教室・公園のごみ拾い・いちご狩り ・季節の遊び(虫取り 秋遊び 水遊び等) ・野菜の栽培(枝豆、とうもろこし、トマト、きゅうり) ・花の栽培(ヒマワリ、チューリップ、ヒヤシンス)
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ハルーン・運動会・劇あそび、わらべうた・卒園遠足 ・リズム遊び・ドッジボール ・集団遊び(氷おに、ふえおに、リレーなど)・縄跳び ・季節の行事(お正月あそび・節分・夏祭り・ひなまつり他) ・卒園式
C	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会・劇あそび・卒園遠足・年下児クラスの手伝い・縄跳び ・季節の行事(お正月あそび・節分・ひなまつり他)・卒園文集作り・卒園式 ・当番活動(人数報告、給食配膳、水やりなど)・ハンカチ、上履きの使用 ・洗濯・掃除(ほうき、雑巾がけ)・小学校訪問 ・タイムスケジュールの表示

アプローチカリキュラムの活動の柱		アプローチカリキュラムのねらい
A	学びの芽を大切に活動の充実	・知的好奇心を育み、自ら学ぶことができるようになります。
B	協同的な遊びや体験の充実	・人とのつながりを実感し、友達とともに目標を達成することができるようになります。
C	自立心を高め新しい生活をつくり、安心して就学を迎えられる活動の充実	・成長を実感し、自信をもって新しい生活をつくるようになります。
		・小学校との交流を通して、安心して就学できるようになります。

アプローチカリキュラム

～当番活動～

自立心を高め、期待をもって就学を迎えようとする姿

順番に
配るぞ！

はい、
どうぞ。



ありがとう！



いただき
ます！

よし、
テーブルを
拭くぞ！



きれいになると
気持ちがい
いいね。

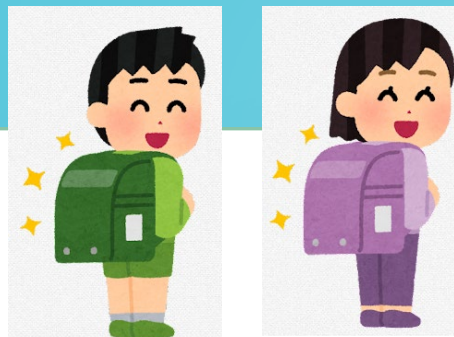


保育者は、子どもたちが自分たちでしなければならないことに気づき積極的に取り組めるよう環境を整えます。そして、当番が心待ちになるよう子どもたちの意欲を高めることが、幼児期に育てることだと考えて取り組んでいます。

【成果と課題】

〈成果〉

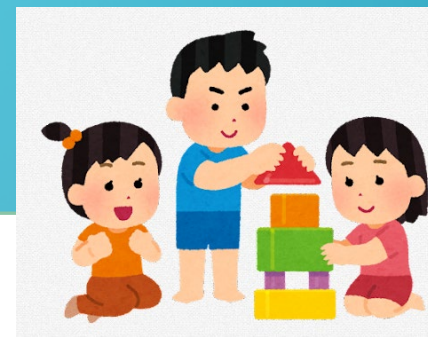
〈職員の連携〉



【成果】

- 学校も園も、それぞれ担当職員が継続して幼保小の活動に取り組むことができたため、お互いの名前と顔が一致し、打ち合わせがスムーズになった。
- 交流が3年目のため、お互いの学校事情や園の事情が理解できるようになり、無理なく、継続してできる研修計画や、交流計画を立てることができるようになった。

〈課題〉



【課題】

- △担当者以外の職員を巻き込んで、学校全体の取り組みとしていくための活動に課題が残る。

【今後に向けて】

〈子どもたちの交流〉

1年生と園児の活動
(学校紹介・公園での交流)

【成果】

- 計画的に交流を進めることで、お互いの成長を感じたり、期待をもったりすることができた。
- 年長児と出会ったり、お世話になった先生にあいさつをしたりすることで、自分たちの成長を実感することができ、良かった。

国語や生活科の中で、さまざまな出身園との交流をうまく取り入れた単元構成をしていくのが良い。

一年生にとっては、自分たちの成長を振り返ったり、褒めてもらったりする機会が増え、自己肯定感があがり、園児たちにとっては、よいロールモデルを目の当たりにすることで、期待を高めていくことができると思う。

